



DAYS BLG!はちおうじ

守谷 卓也
中田 哲行



DAYS BLG!

DAYS→日々、毎日

BARRIERS→障害

LIFE→生活

GATHERING→集う場所

障害があろうがなかろうが、豊かな生活を皆で集まって、感動的なものにしよう

フラットの関係

フラットの関係

- Friendly with dementia
- 「認知症と親しい」
- パートナー
- 「その人と何ができるか」という関係性が問われる
- 楽しさが問われる



素になれる場所。

ハブ機能



社会とのつながりを保つこと、役割を持つこと

- ・ 社会参加型就労
- ・ 社会とのつながりを保つこと、役割を持つことが「生きる糧」となる。
- ・ 認知症当事者として講演活動、相談業務にあたる。
- ・ 家族や周囲の人のために働く。→ハタラク
- ・ できることを活かしてボランティア活動をする。→はたらく
- ・ 賃金を得て働く。→働く

知っていますか？

各都道府県介護保険担当課（室）
各市町村介護保険担当課（室）
各介護保険関係団体 御中

← 厚生労働省 老健局 総務課認知症施策推進室、
振興課、老人保健課

介護保険最新情報

今回の内容

若年性認知症の方を中心とした介護サービス
事業所における地域での社会参加活動の実施
について

計5枚（本紙を除く）

Vol.669

平成30年7月27日

厚生労働省老健局

総務課認知症施策推進室、

振興課、老人保健課

貴関係諸団体に速やかに送信いただきますよう
よろしくお願いいたします。

連絡先 TEL：03-5253-1111（内線3975、3869）
FAX：03-3503-2740

働く



働く



働く



働く



はたらく



はたらく



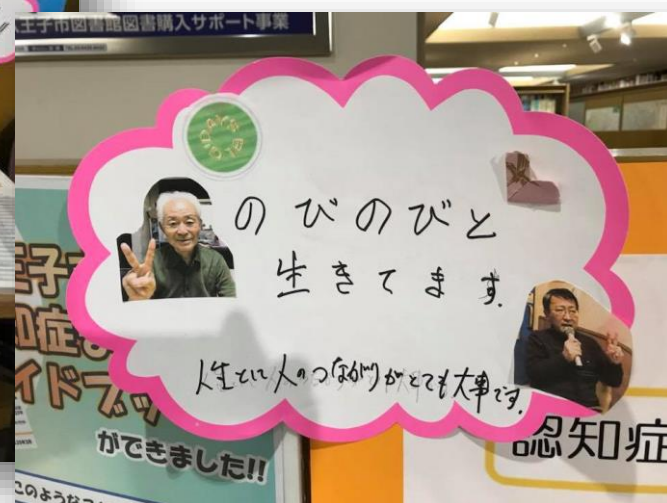
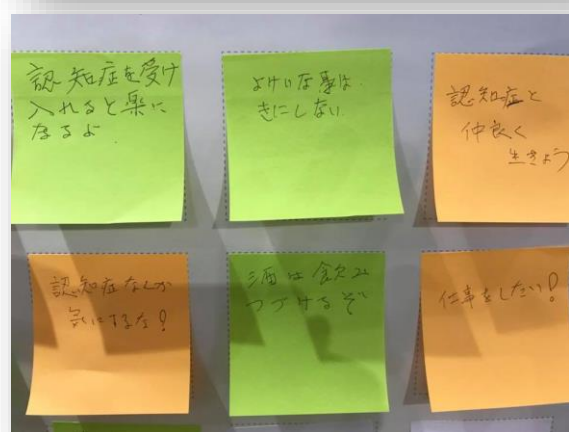
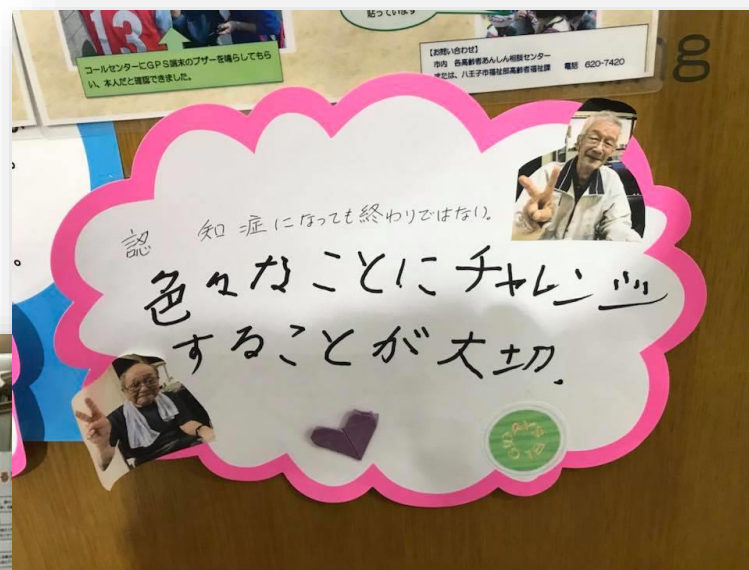
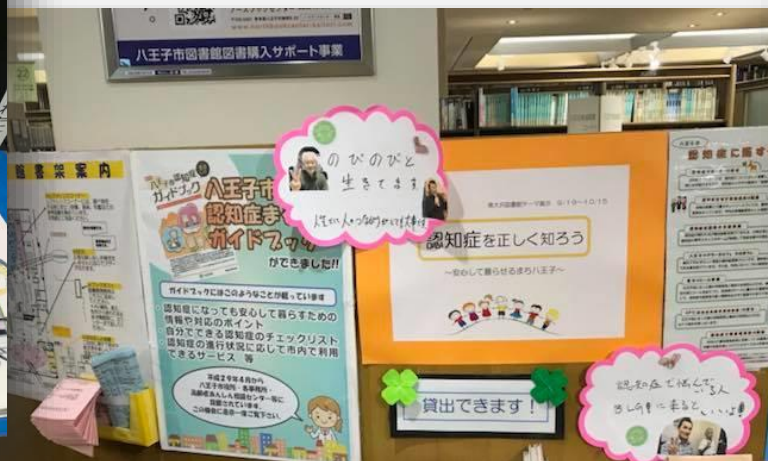
はたらく



駄菓子屋を通して・・・



地域作り





健康寿命

アメリカ・ブリガムヤング大学のジュリアン・ホルトランスタッド教授（心理学）は2010年、30万人以上のデータを対象とした分析を行い、「**社会的なつながりを持つ人は、持たない人に比べて、早期死亡リスクが50%低下する**」とする結果を発表した。

つまり・・・

今後、超高齢社会において、**社会的つながり**
は健康で文化的な生活を送る上で必要不可欠な
要因であり、つまりは年齢等関係なく**社会参加**
が求められる。

認知症と医療費

【ニューヨーク時事通信】

米国の大手製薬会社が「**認知症薬**」の研究開発から**相次ぎ撤退**している。巨額の費用が掛かる一方、治療につながる十分な成果が得られず、継続は困難と判断した。ただ、人口の高齢化に伴い患者の増加が予想される。

→医療費アップ？

つまり・・・

認知症と共に生きることは前提でもあり、
誰もがなる可能性が示唆されている現在、
予算整備は「対策」にではなく、「どう生
きるか」にシフトしていく。

提案

認知症でも社会参加しながら健康で文化的な生活が送られることで医療費の削減につながる。

認知症対策基本法 → 認知症の人基本法

本人の声を聴く

- ・「私たちのことを、私たち抜きで決めないでほしい」
- ・「私に関することは、どんなことでも最初に私に聞いてください」
- ・声を聴いて終わりにしないで→聴いた責任

介護サービスに頼らない支援

- ・支えるのではなく、共に悩み考える仲間との出会い

Dシリーズ



こんな専門職は嫌い

- ・病名で人を見る
 - ・困ったことを聞く
 - ・昨日、何をしていたか聞く
 - ・家族とばかり話しをする
 - ・専門用語を使う
 - ・できないことを探す
 - ・ニンチ・徘徊と言う
-
- ・やりたいことを聞いてほしい

Dementia Friendly Communities



www.facebook.com/DAYSBLGhachiouji